

令和9年度

システム工学研究科
博士前期課程学生募集要項

一般選抜



2026年5月
和歌山大学大学院

システム工学研究科博士前期課程 目的及び使命

研究科博士前期課程は、社会からの複数の分野を理解し活用出来る人材の求めに応じるため、従来の工学のような狭い専門分野を深く追求するだけでなく、広い視野から時代の要請に応え、それらを解決できる新しいタイプの研究者や技術者を養成する。

(和歌山大学大学院システム工学研究科規則第1条の2第2項)

アドミッション・ポリシー

【求める学生像】

システム工学研究科博士前期課程において、入学者に求める知識・技能、能力は次のとおりである。

1. 博士前期課程入学後に工学の複合領域を含む高度な専門知識を学ぶ基礎となる能力・技能・研究力を有する人
2. 主体的に新しいことに挑戦し、工学分野において社会に貢献しようとする意欲や態度を有する人
3. 明確な目的意識を持ち、他者と協働して国内外の社会の様々な工学系分野における課題解決に取り組む意欲や態度を有する人
4. 学問や研究に真摯に取り組む態度を有する人

【入学後の期待】

入学後には、主体的に学び考える力をもち、次の観点から、学術・産業研究を含む広範な工学系分野で活躍する自律的な技術者・研究者を目指すことを求める。

1. 工学の複合領域に関する高度な専門知識を主体的に身につけること
2. 自らの思考、手法、結果及びその妥当性を平易かつ論理的に説明できる能力を高めること
3. 国内外の工学系分野の課題に倫理観をもって主体的に取り組むこと

【入学者選抜の基本方針】

1. 一般選抜では、筆記試験、TOEICのスコア、書類審査、面接により、志望研究分野に関する工学的専門知識や、学修意欲・研究の構想・修了後の希望進路を含む進学の目的意識などを総合的に評価し、入学者を選抜する。
2. 学部3年次学生を対象とする特別選抜では、書類審査と面接により、志望研究課題に関する工学的専門知識や、学修意欲・研究の構想・修了後の希望進路を含む進学の目的意識などを総合的に評価し、入学者を選抜する。
3. 社会人特別選抜では、書類審査と面接により、社会で培ったキャリアや、志望研究課題に関する工学的専門知識、学修意欲・研究の構想・修了後の希望進路を含む進学の目的意識などを総合的に評価し、入学者を選抜する。
4. 外国人留学生特別選抜では、書類審査と面接により、日本語によるコミュニケーション能力や、志望研究課題に関する工学的専門知識、学修意欲・研究の構想・修了後の希望進路を含む進学の目的意識などを総合的に評価し、入学者を選抜する。

目 次

一般選抜

1. 募集人員	2
2. 出願資格	2
3. 出願資格審査について	3
4. 出願手続	4
5. 受験上および修学上の配慮を必要とする者の事前相談	6
6. 選抜方法等	6
7. 合格者の発表	7
8. その他	7
一般選抜 受験上の注意	8

入学案内

1. 入学時期	10
2. 入学手続	10
3. 入学納付金	10
4. 入試情報の開示について	10
5. 個人情報の取扱い	10
システム工学研究科博士前期課程の案内	12
システム工学研究科の教育研究分野	14

一 般 選 抜

一般選抜と特別選抜の両方に
出願することはできません。

一般選抜募集要項

1. 募集人員

専攻	クラス	募集人員	備考
システム工学	ロボティクス	123名	募集人員を満たさなかった場合のみ、2次募集を実施します。2次募集を実施する場合は、合格者の発表後にシステム工学研究科のホームページ（ https://www.wakayama-u.ac.jp/sys/grad_sys/ ）で周知します。
	電子物理工学		
	化学		
	環境科学		
	建築・ランドスケープ		
	情報創成		

※配属を志望するクラスは、出願時に選択します。クラスについては、14ページから16ページ「システム工学研究科の教育研究分野」を参照してください。

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者。

- (1) 学校教育法第83条第1項に定める大学を卒業した者および令和9年3月までに卒業見込みの者。
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により、学士の学位を授与された者および令和9年3月までに学士の学位を授与される見込みの者。
〔大学改革支援・学位授与機構（大学評価・学位授与機構含む）により学位を授与された者および授与される見込みの者等〕
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および令和9年3月までに修了見込みの者。
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および令和9年3月までに修了見込みの者。
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および令和9年3月までに修了見込みの者。
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了することおよび当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって学校教育法施行規則第155条第1項第4号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者および令和9年3月までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者。
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者。
- (8) 文部科学大臣が指定した専門課程適格専攻科を修了した者および令和9年3月までに修了見込みの者。
- (9) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）。
〔旧大学令による大学、各省庁組織令・設置法による大学校を卒業した者等〕
- (10) 本研究科における能力の個別審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で令和9年3月末日までに22歳に達する者。

3. 出願資格審査について（出願資格(10)に該当する者のみ）

一般選抜の出願資格(10)により出願を希望する者は、出願に先立って出願資格審査を行いますので、関係書類等を提出してください。提出に際しては、必ず事前に、志望クラスタ主任の承認を得てください。

(1) 提出書類等

本研究科所定様式は以下のシステム工学研究科入試情報ページからダウンロードし、A4サイズ片面で印刷してください。

※ダウンロード場所：和歌山大学>システム工学部>システム工学研究科>入試情報（「博士前期課程」）

https://www.wakayama-u.ac.jp/sys/grad_sys/admission/index.html

提出書類等	備考
①出願資格審査申請書	本研究科所定様式。志望クラスタ主任の承認印を得ること。
②成績証明書	最終学歴となる学校等が作成したもの。
③履修手引・シラバス	カリキュラム・成績評価の基準がわかるもの、および授業内容がわかるもの。
④卒業または修了（見込）証明書	最終学歴となる学校等が作成したもの。
⑤研究生、研究員等の研究歴 または研究従事証明書 ※該当者のみ	任意様式。研究に従事した日本国内または国外の大学等が発行したもの。

【注1】 上記以外で、審査上必要な書類を請求する場合があります。

【注2】 提出書類等が日本語および英語以外による場合は、訳文（和訳または英訳）を添付してください。

(2) 提出期限

提出期限：令和8年6月5日（金）〔午後5時必着〕

- ・受付時間は、午前9時から午後5時までとします。
- ・郵送の場合は、角型2号サイズの封筒（A4用紙が折らずに入るもの）を用い、「書留・速達」で提出期限内に必着するよう、郵送してください。出願資格審査申請書は折り曲げないでください。なお、提出期限を過ぎて到着したものは受理しません。

(3) 審査方法

提出書類により審査します。

(4) 審査結果の通知

審査結果は、令和8年6月19日（金）頃までに郵送にて通知します。

(5) 提出先および問合せ先

和歌山大学学務課システム工学部係
〒640-8510 和歌山市栄谷930番地
TEL 073-457-8021

4. 出願手続

以下により出願手続を行ってください。

出願資格(10)により出願するためには、出願資格審査に合格している必要があります。

本研究科所定様式は以下のシステム工学研究科入試情報ページからダウンロードし、A4サイズ片面でカラー印刷してください。

※ダウンロード場所：和歌山大学>システム工学部>システム工学研究科>入試情報（「博士前期課程」）

https://www.wakayama-u.ac.jp/sys/grad_sys/admission/index.html

(1) 出願書類等

出 願 書 類 等	備 考
入 学 願 書	本研究科所定様式。記載必要事項を楷書で丁寧に記入してください。「募集要項に記載の出願資格番号」欄は、P.2に記載の「2. 出願資格」を参照し、該当する出願資格の番号を記入してください。配属を希望するクラスは必ず記入してください。また、検定料納入の際に金融機関又はコンビニエンスストアから交付される「振込金受付証明書（C票）」又は「取扱明細書」を所定の欄に貼付してください。
受 験 票 写 真 票	本研究科所定様式。記載必要事項を楷書で丁寧に記入してください。
検 定 料 (30,000円)	以下の2つの納入方法のうちいずれかの方法で納入してください。
金 融 機 関	別添の振込依頼書により金融機関の窓口にてお振込ください。
コ ン ビ ニ エ ン ス ス ト ア	以下に示す支払期間中にお支払いください。 支払方法等につきましては、必ず以下に示すHPでご確認ください。 【支払期間】 令和8年7月1日（水）午前0時～7月24日（金）午後3時 【支払方法等】 https://e-shiharai.net/ （右のQRコードからもアクセスできます）
宛 名 票 (選考結果通知書等送付用)	本研究科所定様式。住所、氏名、郵便番号を明記してください。
「受験票在中」封筒	市販の長形3号封筒（12cm×23.5cm）を準備し、本研究科HPからA4サイズでカラー印刷した「受験票在中」封筒貼付用宛名シートに入学志願者の受信場所住所、氏名、郵便番号を明記し、封筒の表に貼付してください。また、410円分の切手（速達料含む。郵便料金が改定された場合は改定後の料金）を貼付してください。
「出願書類在中」封筒	郵送の場合のみ。市販の角形2号封筒（24cm×33.2cm）を準備し、本研究科HPからA4サイズでカラー印刷した「出願書類在中」封筒貼付用宛名シートに必要事項を記載の上、封筒の表に貼付してください。
成績証明書および卒業(修了)証明書または卒業(修了)見込証明書	出身学校が作成したもの。 ただし、日本語および英語以外による証明書の場合は、各証明書の訳文（和訳または英訳）を添付してください。 <u>また、編入学により大学へ入学した者については、編入学前の学校（短期大学、高等専門学校等）の成績証明書も併せて提出してください。</u>
研 究 計 画 書	本研究科所定様式。(3)の「研究計画書の作成について」を参照して作成し、提出してください。なお、様式は上記の本研究科入試情報ページから、Word形式もしくはPDF形式でダウンロード可能です。
TOEICのスコアシートの原本とコピー（原本は返却します）、またはデジタル公式認定証を2部（1部は返却します）	次の1～2のうち、いずれかを提出してください。 1. TOEIC (LR) 公開テスト 2. TOEIC団体特別受験制度 (IPテスト) いずれも本研究科入試の入学試験日から遡って2年以内に受験したもの。 <u>出願後にスコアシートの差しかえをする場合は、面接試験日に提出することができます。出願時にスコアシートを提出しなかった場合は受験することができません。</u> 詳細は、6. 選抜方法等（7）英語の成績評価について（7ページ）を確認してください。



◆該当する出願者が提出すべき書類

それぞれの出願資格に該当する者は、それぞれ当該必要書類を、P.4に記載の出願書類と併せて提出してください。

① 出願資格(2)により出願する者

該 当 区 分	出 願 書 類 等	備 考
学士の学位を授与された者	学 位 授 与 証 明 書	大学改革支援・学位授与機構（大学評価・学位授与機構含む）が発行したもの。
大学改革支援・学位授与機構（大学評価・学位授与機構含む）に学位申請中の者	学 位 授 与 申 請 証 明 書	大学改革支援・学位授与機構（大学評価・学位授与機構含む）が発行したもの。
短期大学または高等専門学校 の専攻科修了見込みの者	学士の学位授与申請予定証明書	当該短期大学長または高等専門学校長が発行したもの。

② 出願資格(10)により出願する者

出 願 書 類 等	備 考
出願資格審査結果通知書	確認の後、返却いたします。

③ 外国人出願者全員

出 願 書 類 等	備 考
在 留 カ ー ド (外国人登録証明書) または旅券の写し	「在留カード（または外国人登録証明書）」の交付を受けている外国人はカードの表面と裏面のコピーを提出してください。 「在留カード（または外国人登録証明書）」の交付を受けていない者はパスポートのコピー（国籍、氏名等が記載されたページと在留資格、在留期間が記載されたページ）を提出してください。

(2) 出願に際しての注意事項

- ① 出願書類が不備の場合は、受理しないことがありますので、不明な点があれば7ページの問い合わせ先に連絡をしてください。特に、日本国外から出願する場合は、予め、連絡してください。
- ② 出願後は、原則として記載事項の変更は認めません。
- ③ 納付された検定料および受理した出願書類は返還しません。
- ④ 出願書類に虚偽の記載をした者は、入学決定後であっても入学を取り消すことがあります。
- ⑤ 出願後、(1)の出願書類等以外に、本研究科が必要とする書類を求めることがあります。
- ⑥ 上記の出願書類が英語以外の外国語で記載されている場合は、日本語または英語の訳文を添付してください。
- ⑦ 一般選抜を志願する方は、特別選抜を併願することはできません。

(3) 研究計画書の作成について

次の課題について、本研究科所定様式を使用し、A4判1ページにまとめてください。
様式は、システム工学研究科入試情報ページからWord形式もしくはPDF形式でダウンロード可能です。なお、書式およびレイアウト等は変更しないでください。[パソコン等による直接印字可]
・課題内容：本研究科において取り組みたい研究課題について、これまでに学修してきたことを含めて記述してください。

(4) 出願書類の提出期間

出願者は、前記の書類等を一括取り揃え、以下の出願期間内に提出してください。

令和8年7月21日（火）から令和8年7月24日（金）午後5時まで。

- ・窓口受付時間は、午前9時から午後5時までとします。
- ・郵送の場合は、「書留・速達」で提出期限内に必着するよう、郵送してください。なお、7月24日（金）午後5時以降到着のものは受理しません。

5. 受験上および修学上の配慮を必要とする者の事前相談

障がい等を有する志願者で、受験上および修学上の配慮を必要とする場合は、以下の期日までにその旨を申し出てください。

また、期日後の不慮の事故等により受験上および修学上の配慮が必要となった場合も、その時点で速やかに申し出てください。

なお、受験上の配慮については内容によって対応に時間を要し、試験日までに対応できず配慮が講じられないこともありますので、できるだけ早い時期にご相談ください。

期日：令和8年6月12日（金） 午後5時まで

【問い合わせ先】 〒640-8510 和歌山市栄谷930番地
和歌山大学学務課システム工学部係
TEL 073-457-8021

6. 選抜方法等

(1) 選抜方法

書類審査、学力検査〔筆記試験（専門分野による小論文）及び英語（TOEICのスコア）〕、面接の結果を総合して行います。英語の成績評価は、TOEICのスコアを100点満点に換算します。詳しくは、「(7) 英語の成績評価について」を確認してください。なお、面接では当該分野の基礎的知識についての試問を行うことがあります。また、書類審査の結果により筆記試験または筆記試験と面接が免除されることがあります。試験免除者には、受験票発送の際に通知します。

(2) 採点・評価基準

[配点]

書類審査・面接	学 力 検 査		合 計
200	筆記試験	英語	400
	小論文100	100	

※試験免除者

書類審査・面接	学 力 検 査		合 計
200	筆記試験	英語	400
	免除(100)	100	

(3) 筆記試験の出題内容

<小論文>

次に示す専門分野について1題を選択します。(600字程度)

・物理 ・化学 ・情報処理 ・環境

(4) 試験日程

	試 験 日	試 験 時 間
①筆記試験	令和8年8月27日（木） 予備日：9月3日（木）	10:00～11:00（60分）
②面接	令和8年8月28日（金） 予備日：9月4日（金）	別途指示します。

③面接に関する連絡事項

TOEICのスコアシートの差しかえをする場合は、面接試験の際に面接員に提出してください。詳細は、「(7) 英語の成績評価について」を確認してください。

「建築・ランドスケープ」クラスタを志望した出願者は、面接の際、作品または資料等を持参することができます。なお、作品または資料の形態は任意とします。

※自然災害等の理由により、試験日に実施ができないこととなった場合、予備日に試験を実施します。

その場合は、以下の和歌山大学システム工学部SNSおよび和歌山大学システム工学研究科ホームページにてお知らせします。(SNSに書き込みをいただいても返信はいたしかねます)

システム工学部 SNS (X) : @sysWakayamaUniv

システム工学研究科 ホームページ : https://www.wakayama-u.ac.jp/sys/grad_sys/

(5) 試験場所

和歌山大学北1号館 (システム工学部)

(6) 受験票の送付等について

受験票は試験の1週間前を目途に発送する予定です。

(7) 英語の成績評価について

英語の試験は、筆記試験を実施せず、次のいずれかのTOEICのスコアを利用します。

1. TOEIC (LR) 公開テスト

2. TOEIC団体特別受験制度 (IPテスト)

本研究科入試の入学試験日から遡って2年以内に受験したスコアシートの原本とコピー、またはデジタル公式認定証2部を出願時に提出してください。出願後にスコアシートの差しかえをする場合は、面接試験日に提出してください。詳細は、8ページの「受験上の注意」を確認してください。

なお、出願時に、スコアシートを提出しなかった場合は受験することができません。

TOEICのスコアは100点満点に換算します。

(8) 受験上の心得

- ・試験当日、交通機関等に支障をきたすような事態が生じても、受験することができるように注意してください。
- ・筆記試験室および面接室等は、試験当日、掲示で通知します。
- ・筆記試験に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り受験を認めます。
- ・筆記試験では、試験開始後の試験室からの退出は試験終了まで認めません。
- ・面接日における受験者個々の集合時刻は、受験票に記載し、通知します。
- ・面接の集合時刻に遅刻した場合は、受験を放棄したものと取扱うことがあります。
- ・上記以外は、8ページの「受験上の注意」を読んでください。

7. 合格者の発表

電話等による合否結果の問い合わせには一切応じません

令和8年9月11日 (金) 午前10時

- ・合格者の受験番号を本研究科ホームページ (https://www.wakayama-u.ac.jp/sys/grad_sys/) に掲載します。(掲載期間：合格発表から、1週間後の午後5時まで)

※掲載開始時刻は多少前後することがあります。なお、発表直後は回線が混み合い、接続に時間がかかる場合があります。

- ・また、合格者には、合格通知書を郵便で送付します。

8. その他

- ・受験のための宿舎、旅館は各自で確保してください。
- ・募集人員に欠員が生じる可能性がある場合は、追加合格又は2次募集により補充します。詳細については、別途お知らせいたしますので、連絡先に変更がある場合は、以下の問い合わせ先までご連絡ください。
- ・募集要項等に関して不明な点がある場合は、以下の問い合わせ先まで問い合わせてください。

◇問い合わせ先◇

〒640-8510

和歌山県和歌山市栄谷930番地

和歌山大学学務課システム工学部係

TEL 073-457-8021

和歌山大学大学院システム工学研究科博士前期課程
一般選抜 受験上の注意

【共通事項】

1. 試験当日は、受験票を必ず持参してください。
2. 試験当日、交通機関等の運行に支障をきたすような事態が生じていても受験することができるように注意してください。
3. 筆記試験を欠席した場合、面接試験を受験することはできません。
4. 試験前日の試験場内への立ち入りは禁止します。
5. 試験当日、受験票を紛失したり忘れた場合は、早めに来学し、係員に申し出て、仮受験票の交付を受けてください。
6. 筆記試験もしくは筆記試験と面接試験の両方を免除された者は、免除された試験の当日、集合する必要はありません。

【筆記試験】

1. 試験当日は、試験開始時刻の30分前までに和歌山大学北1号館（システム工学部）玄関ホールに集合し、係員の指示により試験室に入室してください。（受付前入室は認めません）
2. 試験室では、机上の番号が受験票の番号と同一であることを確認して着席してください。
3. 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り受験を認めます。なお、試験開始時刻後30分経過後は、いかなる理由があっても受験を認めません。
4. 試験開始後は試験終了まで退室を認めません。ただし、体調不良や用便等やむを得ない事情が生じた時は、挙手し、試験監督者の指示を受けてください。
5. 試験終了の合図があった後は、解答用紙と問題冊子を整理して机の上に置き、試験監督者が全受験者の解答用紙を回収し、退室の指示があるまで退室をしないでください。
6. 解答用紙の持ち出しは禁止しますが、問題冊子は持ち帰るようにしてください。
7. 試験時間中、机の上に置ける物は、受験票・鉛筆・ボールペン・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り・時計（計時機能だけのもの）です。なお、時計の代用として、スマートフォン等を使用することは認めません。また、物品の貸出は行いません。
8. 机の上に置ける物以外の所持品は、整理してカバン等の中にしまい、足元に置いてください。
9. 英文字や地図、数式、元素記号等がプリントされた衣類の着用はしないでください。
10. スマートフォン等は、試験室に入る前に電源を切るようにしてください。
11. 試験中は、受験者間での物品の貸借は認めません。
12. 問題冊子や解答用紙に印刷の不鮮明な点があれば、挙手して試験監督者に教えてください。

【面接】

1. 受験票の裏面に指示する集合時刻に、和歌山大学北1号館（システム工学部）玄関ホールに集合し、係員の指示により受験者控室へ入室してください。（受付前入室は認めません）
2. 集合時刻に遅刻した場合は、受験を放棄したものと取り扱うことがあります。
3. 受験者控室に入室後は、係員の呼び出しがあるまで、静かに待機してください。
4. 受験者控室内での携帯電話・スマートフォン、タブレット型パソコン等の使用は禁止します。
5. スマートフォン等は、面接室へ入る前に電源を切るようにしてください。
6. 「建築・ランドスケープ」クラスタを志望した出願者は、面接の際に作品または資料等を持参することができます。なお、作品または資料等の形態は任意とします。
7. 面接時の服装は、軽装（ノーネクタイ・ノー上着）で結構です。

【英語】

1. TOEICのスコアシートの差し替えをする場合は、面接試験の際に、試験室にて原本とコピー、またはデジタル公式認定証2部を提出してください。
2. 面接が免除の方でスコアシートの差し替えを希望する場合は、面接日の午前10時に、受付（北1号館玄関ホール）まで原本とコピー、またはデジタル公式認定証2部を持参してください。

※原本は返却します。

入学案内

1. 入学時期 入学の時期は令和9年4月です。

2. 入学手続

入学手続期限は、以下のとおりです。合格者には入学手続書類等を令和9年2月中旬に送付する予定です。

令和9年3月27日(土)まで [予定]

【注】上記期限内に入学手続を行わなかった場合は、入学を辞退したものと取り扱います。

3. 入学納付金

(1) 入学料 282,000円

(2) 授業料 267,900円 <前期分> (年額 535,800円)

【注】上記記載の金額は令和8年度のもので、令和9年度入学者の納付金額については、決定次第、別途お知らせいたします。

4. 入試情報の開示について

本選抜における主な入試情報を次のとおり開示します。

(1) 志願者数、受験者数、合格者数、入学者数

ホームページに開示

(2) 合格最高点・最低点および合格者の平均点

ホームページに開示

(3) 試験成績

〔開示内容〕

得点および順位。

〔開示方法等〕

申請書(本学所定)の記入および受験票の提示により以下の開示窓口にて開示します。

遠隔地の方は郵送による請求もできます。郵送の場合は、申請書・受験票・返信用封筒(長形3号の封筒に簡易書留郵便料として460円分の切手を貼付し、受験者本人あての住所・氏名を明記したもの)を以下の開示窓口までお送りください。

※郵便料金が改定された場合は、改定後の定形郵便物に簡易書留料金をあわせた郵便料金分の切手を貼付してください。

詳細はホームページ(<https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>)をご参照ください。

〔開示時期〕

令和9年2月1日(月)から令和9年3月31日(水)まで

郵送の場合は必着。窓口での請求は同期間内の月～水曜日(祝祭日を除く)9時～17時。

※申請受付当日の開示はできません。1週間ほどお時間をいただきます。

〔開示窓口〕

和歌山大学学務課システム工学部係

〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷930番地

TEL 073-457-8021

5. 個人情報の取扱い

本学が保有する個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人和歌山大学における個人情報の保護に関する規程」等に基づき、厳密に取り扱います。

(1) 出願書類等に記載された個人情報は、「入学者選抜(出願処理、選抜試験実施)」、「合格者発表」、「入学手続」の入試業務、「入試の改善や志願動向等の調査・研究」、「その他の本学における諸調査・研究等」を行うために利用します。出願書類等に不備があった場合には、その訂正・補完を迅速に行っていただくために、本学に出願していることを、保護者等又は出身学校に連絡する場合があります。

なお、入学者については、「入学者の受入準備」、「教務関係（学籍管理、修学指導等）」、「学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金業務、就職支援等）」、「授業料等収納業務」を行うために利用します。

- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、「入試結果の集計・分析」、「入学者選抜方法の調査・研究」及び「学生支援関係（授業料免除・奨学金業務等）」を行うために利用します。
- (3) 一部の業務を外部の事業者へ委託する場合があります。この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して個人情報を提供します。
- (4) 捜査機関等が捜査上必要とした場合等、行政機関等が法令に定める業務等を行うに必要な限度で利用することについて、相当の理由があるときに、当該行政機関に個人情報を提供します。

システム工学研究科博士前期課程の案内

1. 教育課程編成および特色

様々な学問領域が重なっているシステム工学を理解するには、専門分野を深く追究するとともに、システム工学を構成する基本要素を学ぶ必要があります。それには学生の専攻する研究分野に加えて、関連する諸分野について、幅広い知識、共通する原理や手法とそれらを応用する技能を修得させることが必要となります。

さらに、専門性の深化を目指す学生は、複合分野を理解しつつ専門分野の研究課題に取り組み、分野横断的な複合課題を志向する学生は、専門分野の異なる教員や学生とグループを組み複合課題に取り組むいわゆるプロジェクト研究を行います。これにより問題解決のための理論や方法論を学びます。

また、地域の第一線で活躍中の研究者を非常勤講師として招聘し、実際の現場で推進されている技術開発の状況や先端的な研究成果など、社会に役立つシステム工学の実学を教授します。

社会人学生に対する配慮として、夏季等に集中講義を実施、ウェブシステム上のハイパーテキストなど、マルチメディアを活用した教育・研究環境を提供します。基礎知識が不足している学生には、個別カリキュラムを作成します。

そして、自らのフロンティア開拓や専門分野を横断する総合的な問題解決能力を養うため、学生の自主的・自発的研究成果を評価する「システム工学特別自主演習」を開設します。

システム工学の実学を体得するため、民間研究機関等での研修や実習（インターンシップ制度）およびフィールドワークなどの機会を与えます。その成果を評価するため「システム工学特別研修」の科目を設け、教育課程の中に研修制度を導入します。

2. 履修指導および研究指導の方法

(1) 開設授業科目

システム工学は複数の学問分野が融合して成り立っています。そのシステム工学を理解し発展させるには、専門分野の知識を重視しつつ、多様な分野に共通する原理を学修することが必要となります。こうした特徴を持つシステム工学を実学として修得できるよう、幅広い専門科目に加えシステム工学特論およびシステム工学研究を開設しています。

- ①本研究科の特徴として、『システム工学特論』の区分中に「システム工学講究」の科目を設け、クラス単位での研究会、ゼミ、輪読等を実施しています。また「システム工学特別研修」は、インターンシップ制度とフィールドワークを教育課程に導入するための科目であり、「システム工学特別自主演習」は、学生の自主性や創造性を喚起するため、学生自ら行う知的、創造的、システムの思考活動を評価するための科目です。
- ②『システム工学研究』は、学位論文の作成等に対する指導（以下、「研究指導」という。）を行うための科目であり、研究計画の作成、研究の実施と論文作成、プレゼンテーションなど、自立した研究者や高度専門職業人に必須の実践性を深めます。
- ③講義内容を豊富化・充実化するため、複数の教員が協力して開設する講義科目（オムニバス方式）を設けています。

(2) 履修基準

①修了要件

修了要件は、2年以上在学し、技術者倫理1単位およびシステム工学研究6単位を含む30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受け、本学大学院の行う修士論文の審査および試験に合格することが必要です。

②履修方法

- a) 大学院学生は、自らの持つ知識や経験と目的に応じて、指導教員の指導を受け、授業科目の履修登録を行ってください。

- b) 研究指導「システム工学研究」の科目は、修士論文等の作成などに対する研究指導を行います。
- c) こうした研究指導に加えて、関連学会やシンポジウムへの参加、学術雑誌への論文投稿などの指導も行います。

(3) 研究指導

システム工学を専攻する学生は、専門分野の知識を重視しつつ、広い視野から分野横断的に課題探求し解決する能力を養成する必要があります。そのため本研究科では幅広い知識に加えて専門性を高めるため、研究指導の単位として教育研究クラスタを設けます。このクラスタは、共通の研究目標を持つ教員と学生で構成されており、その中での教育研究活動をとおして学生のシステム工学エンジニアとしての高度の専門性を養成します。

別表にあるように教育研究クラスタは、社会ニーズが高く、次世代技術のキーとなる領域を対象に、6クラスタを設置します。学生は、選択したクラスタで入学試験から修士論文作成までの教育研究指導を受けることになります。

3. 長期履修学生制度

この制度は、学生が職業を有しているなどの事情により、研究科博士前期課程の標準修業年限の2年を超えて一定の期間（3年または4年）にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することの希望を申し出たときは、審査の上、その計画的な履修を認めることができるものです。

この制度により長期履修学生と認められた場合の授業料は、2年間（標準の修業年限）分の授業料総額を、あらかじめ認められた一定の修業年限で除した額にして、それぞれの年に支払うこととなります。

長期履修を希望する場合は、入学試験合格後に学務課システム工学部係にご確認ください。

システム工学研究科の教育研究分野

システム工学専攻

クラスタ名	キーワード	教育研究内容	クラスタ 担当教員
ロボティクス	ロボティクス システム制御 機械学習 ソフトアクチュエータ メカトロニクス計測	本クラスタでは、これからの社会に役立つロボットなどの機械情報システムの創造を目的として、ロボティクス、システム制御、ソフトアクチュエータ、計測などの分野について、先進的な理論と技術を探究する。さらに、各分野の技術を有機的に統合したシステムの研究開発や実環境への応用にも取り組むことで、高度な科学技術に対応できる能力と、実社会に貢献できる実践的な研究開発力を養う。	土橋 宏規 教授 中嶋 秀朗 教授 長瀬 賢二 教授 村田 頼信 教授 小川原光一 准教授 菊地 邦友 助教
電子物理工学	情報フォトンクス 光学イメージング 有機エレクトロニクス 光応用計測 近赤外光計測 レーザー分光 結晶構造予測 半導体ナノ材料 有機半導体 物理化学 ゆらぎの統計物理 ソフトマター物理	本クラスタでは、物理学を基盤として物質・光・電子・スピンに関わる幅広い教育研究を展開している。複雑拡散現象の数理物理、半導体量子ドットや酸化物・有機材料の結晶成長、光・電子・スピンを利用したデバイス創成、イメージング・センシング技術による医療・環境・食品分野への応用、第一原理計算による物性解析など、多様な研究テーマを有する。主な内容は以下のとおりである。 ・物質（ソフトマター等）におけるゆらぎや拡散現象の理論と数値解析 ・第一原理計算・計算化学による電子状態、結晶構造、遷移状態の予測と理解 ・半導体量子ドット、酸化物半導体、有機半導体の結晶成長と光・電子物性評価、およびそれらを利用した高性能電子・光デバイス創成 ・光の特徴や光に対する物質の性質を活かした計測技術の開発 ・分光（ラマン、ESR等）を用いた物質評価とデバイス・材料開発への応用 ・フォトンクスと情報処理を融合した分光・イメージング・センシング技術と社会応用	宇野 和行 教授 尾崎 信彦 教授 下谷 秀和 教授 宮口 智成 教授 山門 英雄 教授 秋元 郁子 准教授 小田 将人 准教授 似内 映之 准教授 宮崎 淳 准教授 最田 裕介 講師
化学	機能性金属クラスタ 自己集積型錯体 触媒 金属錯体 放射光 分子物性化学 有機合成化学 量子有機化学 光機能分子化学 超分子化学 機能性有機・無機複合材料 ナノ粒子 化学センシング 生体適合性材料 バイオ分析 生体関連化学 核酸化学 ケミカルバイオロジー	本クラスタでは、ナノレベルでの物質や生命現象の理解と制御、計測、機能発現などを行うために必要な理論と技術に関する教育と研究を理論化学と合成化学の両面から行い、最先端の「ものづくり」や資源・環境保全に対応できる技術者の養成を目指す。主な教育研究内容は、以下の通りである。 ・陰イオン性金属酸化物・金属過酸化物クラスタを中心とした多核金属錯体の設計、合成、構造決定、集積挙動の解析および触媒等応用分野の開拓。 ・固体物性を発現する新奇機能性金属錯体の合成と、放射光などを用いる錯体の電子状態の解明。 ・機能性有機典型元素化合物の設計・合成および量子有機化学の適応。 ・典型元素を含む芳香族化合物を基盤とした発光材料および有機エレクトロニクス材料の合成と物性。 ・高機能性の有機分子、超分子ならびに有機・無機複合材料の設計・合成とその応用。 ・ナノ粒子およびその化学修飾に基づく新規な分離・分析法の研究・開発。 ・生体試料測定のための感度、選択性および生体適合性に優れた分析化学技術の開発。 ・生体分子検出・制御のためのケミカルツールの設計・合成、ならびに生細胞への応用。	奥野 恒久 教授 橋本 正人 教授 林 聡子 教授 矢嶋 摂子 教授 大須賀秀次 准教授 坂本 隆 准教授 中原 佳夫 准教授 吉田 健文 講師

クラス名	キーワード	教育研究内容	クラス 担当教員
環境科学	地理情報システム (GIS) 循環システム分析 防災・減災支援 環境動態解析 機械学習 ドローン 点群	<p>本クラスでは人間活動と環境とのかかわりを定量的に分析し、環境科学分野における専門的な知識やスキルを修得します。複雑系である環境問題の解決に役立てる人材の育成と、実際の現場環境問題の解決を相補的に目指すクラスです。地域の現場におもむき、自然文化・社会経済状況を、GISなど定量化ツールを援用して深く洞察、現象説明モデルの構築と現場環境の改善シナリオ提案を学術研究として進めていきます。扱うテーマは生活圏の環境、水環境、地下環境、動物・植生環境、災害による環境変化や環境被害低減、資源・製品の生産や消費に伴う環境負荷など、多岐にわたります。人新世のあらゆる環境をターゲットとして、循環経済、脱炭素、自然共生社会、安心・安全社会の実現に寄与する新しい技術や方法論を創造し、地域社会に実貢献することを目指します。</p>	江種 伸之 教授 原 祐二 教授 吉田 登 教授 田内 裕人 准教授 山本 祐吾 准教授 叢 日超 講師 谷口 正伸 助教
建築・ランドスケープ	建築設計 空間デザイン 景観デザイン 都市デザイン まちづくり・むらづくり 防災・減災 自然保護・再生 環境影響評価 地球環境観測・解析 情報化設計	<p>持続可能な発展目標 (SDGs) に従い、環境への配慮や社会的な関心が高まる中、私たちの暮らす生活環境に配慮した建築・空間計画が求められています。本クラスでは、インテリアデザインから都市計画、身近な自然から森林まで、様々なスケールに対応した生活空間を対象とした環境デザインのあり方を学びます。建築・ランドスケープの扱う領域は、建築、都市、森林などの緑地、伝統的な住居から働く場所まで、様々な空間を対象とします。これらの空間を対象に、多様な要素を理解し、あるべき姿を構想し、実現する方法を提案します。これらの学びを通じて、自然と調和する技術や空間構想を表現できるスキルを身につけ、建築設計、まちづくり、環境保全に取り組む技術者、デザイナーの育成をめざします。</p>	阿曾 芙実 教授 佐久間康富 教授 中島 敦司 教授 河崎 昌之 准教授 平田 隆行 准教授 川角 典弘 講師 森 友里歌 助教

クラス名	キーワード	教育研究内容	クラス担当教員
情報創成	<p>人工知能・機械学習・深層学習</p> <p>パターン認識・画像処理・コンピュータビジョン</p> <p>自然言語処理・音声情報処理</p> <p>AR・VR・XR</p> <p>ヒューマンコンピュータインタラクション・UXデザイン・インタフェース</p> <p>対話システム・エージェント・感情認識</p> <p>データマイニング</p> <p>ソフトウェア工学・ソフトウェア品質・OSS</p> <p>情報ネットワーク・IoT・無線通信</p> <p>ネットワークセキュリティ・ブロックチェーン</p> <p>コンテンツ配信・マルチメディア通信</p> <p>数理工学・最適化・情報理論</p> <p>ロボティクス・ロボットビジョン・生体信号処理</p> <p>防災・減災情報システム・グループウェア</p> <p>教育・学習支援・知識工学</p> <p>デザイン工学・感性工学・認知科学</p>	<p>本クラスは、計算機科学・情報工学を基盤とし、人工知能、データサイエンス、ネットワーク、ヒューマンインタフェース、数理工学など、情報学の幅広い領域を包括的に扱う教育・研究組織である。急速に進展する情報技術を活用し、社会が直面する多様な課題の解決に取り組むとともに、分野横断的な連携を通じて新たな価値の創造を目指す。具体的な教育研究分野は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工知能・機械学習・深層学習：知的情報処理の理論と応用、計算論理に関する研究。 パターン認識・画像処理・コンピュータビジョン：画像認識、画像検索、DNNモデルの圧縮と実装、センサーデータ解析に関する研究。 自然言語処理・音声情報処理：テキスト解析、音声認識、音声対話、マルチモーダル情報処理に関する研究。 AR・VR・XR：拡張現実感、仮想現実感、クロスリアリティに関する研究。 ヒューマンコンピュータインタラクション・UXデザイン・インタフェース：ユーザエクスペリエンスデザイン、ユーザビリティ、人間工学、コミュニケーション支援、多言語・異文化コラボレーション支援に関する研究。 対話システム・エージェント・感情認識：擬人化エージェント、対話システム、ノンバーバル表現、感情認識に関する研究。 データマイニング：Webマイニング、ソーシャルメディア分析、デジタルライブラリ、学術情報流通、計量書誌学に関する研究。 ソフトウェア工学・ソフトウェア品質・OSS：ソフトウェア品質評価、プログラム解析、リポジトリマイニング、オープンソース開発、ソフトウェア開発環境に関する研究。 情報ネットワーク・IoT・無線通信：無線通信方式、無線ネットワーク、Internet of Things、インターネット・アーキテクチャ、スマートモビリティに関する研究。 ネットワークセキュリティ・ブロックチェーン：情報セキュリティ、ネットワーク制御、自己組織化、サイバーフィジカルシステム、ネットワーク運用管理に関する研究。 コンテンツ配信・マルチメディア通信：コンテンツ配信網、QoS、ネットワーク支援技術に関する研究。 数理工学・最適化・情報理論：アルゴリズム論、計算幾何学、組合せ最適化、オペレーションズ・リサーチ、シャノン理論、多端子情報理論に関する研究。 ロボティクス・ロボットビジョン・生体信号処理：知能ロボット、外骨格型ロボット、動作推定・予測、学習制御、生体信号解析に関する研究。 防災・減災情報システム・グループウェア：防災・減災支援システム、医療情報共有支援、グループウェア、協調作業支援に関する研究。 教育・学習支援・知識工学：教育工学、学習支援システム、スキル学習、オントロジー工学、デジタルアーカイブに関する研究。 デザイン工学・感性工学・認知科学：デザイン方法論、プロダクトデザイン、心理音響、音質評価、認知科学に関する研究。 	<p>天野 敏之 教授 今井 敏行 教授 大平 雅雄 教授 葛岡 成晃 教授 塚田 晃司 教授 中村 恭之 教授 原田 利宣 教授 宮本 伸一 教授 吉野 孝 教授 吉廣 卓哉 教授 松田 憲幸 教授 満田 成紀 教授 伊原 彰紀 准教授 曾我 真人 准教授 陳 金輝 准教授 村川 猛彦 准教授 伊藤 淳子 講師 堅田 俊 講師 菅間 幸司 講師 吉川 次郎 講師 久世 尚美 講師 嶋利 一真 講師 古川 淳一郎 講師 川橋 裕 講師 西村 竜一 講師 藤本 章宏 講師 三浦 浩一 講師 王 開 助教 亀山 勇希 助教 查 澳龍 助教 Hanif Fernanda Putra 助教 松延 拓生 助教</p>

2026年4月時点
(2027年度末までに退職予定の教員を除く)